

「早期治療は矯正治療期間を短縮できるのだろうか？」

栃木県宇都宮市開業 宇津矯正歯科医院 宇津 照久

歯科医師過剰時代が叫ばれていたのは25年位前からで、実感するようになって来たのは20年くらい前からだと思います。分院の閉鎖や歯科医院の倒産など暗い情報が出始めていたように感じます。当時は矯正歯科や口腔外科の分野はリスクが高く、高度な専門性が必要なため手がけている歯科医師の数は少数で、まだまだ専門開業医の経営が逼迫することはなかったと思います。

その後、矯正歯科の標榜をする医院の数とアルバイト矯正医の数は激増の一途を辿り、ここ10年くらい前から私の診療室では被害者と思える患者さんからの相談を受けることが増え始めています。

被害の種類は多岐に渡りますが、共通点は矯正治療のリスクについての説明が皆無であることや治療開始時期に対する根拠が不明確であること、さらには明確な治療目標の提示がないことなどが挙げられます。

今回は、早期から長年に渡り矯正治療を受けていたにも関わらず、思わしい結果に到達することも儘ならず、永久歯咬合完成後にあらためて治療開始することになった例について報告させていただきます。さらに早期からの治療を行わず成長のみを観察し、第二次成長期終了後にできるだけ根拠をもった治療を妥当な治療期間で行った症例について報告をさせていただきます。

皆様と質の高い矯正治療を維持してゆくためにどのようにしたらいいのか、我々矯正歯科専門医が本物を求める患者さん達にどのようにしたら貢献できるのかを考えてみたいと思います。

【略歴】

宇津 照久 (うつ・てるひさ)

1982年 日本大学歯学部卒業

1982年 東京医科歯科大学歯学部 矯正学教室第一講座入局

1984年 東京医科歯科大学歯学部 矯正学教室第一講座専攻科修了、医員として勤務

1990年 宇都宮市に宇津矯正歯科医院開設

2004年 ヨーロッパ舌側矯正歯科学会より最優秀賞受賞

現在 日本矯正歯科学会 認定医・専門医

日本顎咬合学会 認定医・指導医

ヨーロッパ舌側矯正歯科学会 アクティブメンバー

WFO フェロー